



1893年(明治26年)5月10日、東京に生まれる。1913年(大正2年)、三越の懸賞脚本に入選。1916年(大正5年)、雑誌『新演芸』の編集人。数多くの戯曲を発表。1921年(大正10年)、伊藤晴雨をモデルとした『火あぶり』を早稲田大学紀要に発表。1924年(大正13年)10月6日、31才で永眠。1925年(大正14年)、プラトン社から『鈴木泉三郎戯曲全集』が発行。

『火あぶり』…画家である津村の自宅。津村が妾のおくにを柱に鎖で縛り付け、その姿を写生している。そこへ、内弟子の火葉がやってきて、おくにと二人きりになる。おくにが火葉を色仕掛けて誘い、いい雰囲気になっているところを津村は目撃する。状況を察した津村は二人を折檻するが…

『谷底』…しあわせな家庭生活を送っていた年代は、家族旅行でやってきた山間の温泉場で、義弟から夫の浮気を知らされる。まるで信じようとしなかった年代であったが、夫を追いかけてやってきた浅子と夫の密会を目撃してしまう。激情にかられた年代は、浅子を谷底へとつきおとしてしまう…

## 2/4 『火あぶり』『谷底』演出 ◆ 増田 雄 (モンゴルズシアターカンパニー)

1987年生。三重県出身。多摩美術大学卒業後、渡英。現在は主に大阪と東京で活動。演劇ユニット・モンゴルズシアターカンパニー主宰。オーケストラとの融合や、精神科医へ向けた講演会、廃工場を利用したアートイベント、ライブイベントとのコラボなど、演劇の垣根を超えたフレキシブルな活動形態を武器に、社会の問題点に焦点を当てた様々な演劇作品を発表している。代表作に『ドグオルザークの新世界』(主演なだぎ武)、『モーツァルトとマリー・アントワネット』(主演宮地真緒)、『鼠』(劇王天下統一大会2015関西代表)等、年間の公演数は15本以上に及ぶ。

## 2/4 講師 ◆ キタモトマサヤ

演出家、遊劇体主宰。泉鏡花戯曲の全作品上演に取り組んでいます(残すところ4作品)。遊劇体以外の外部演出には、大阪現代舞台芸術協会(DIVE)プロデュース公演『中島陸郎を演劇する』(作・内藤裕敬・深津篤史・樋口ミユ・棚瀬美幸)、国民文化祭・京都2011『現代劇の祭典』企画委員会プロデュース公演『林檎の木の実ん中の心臓』(作・大内卓)、桃園会公演『カラカラ』(作・深津篤史)など。劇作家として『闇光る』(演出・宮田慶子)が第一回仙台劇のまち戯曲賞大賞。神楽舞台上演した『闇光る』(遊劇体公演)の演出にて十三夜会賞奨励賞。京都精華大学人文学部非常勤講師、熊取ゆうゆう大学演劇講座講師、アトリエ劇研アソシエイト・アーティスト。

## 2/4 パネラー ◆ 正木喜勝

1978年京都生まれ。博士(文学)。大阪大学、宝塚北高校演劇科などで演劇研究・教育に従事したのち、現在は学芸員として演劇史料の調査および研究にあたっている。専門は演劇学、近代日本演劇史。共著に『劇的尖端 村山知義』、『交差する歌舞伎と新劇』など。論文「豊中グラウンドの誕生とその意義」、「宝塚少女歌劇上演目録補遺」など、大正期関西文化の歴史研究にも取り組んでいる。



大正時代から昭和時代初期の劇作家・評論家。はじめ、哲学者・西田幾多郎の影響を受けるが、長い闘病生活のなかで宗教的な人生観をもつようになり、文学に関心を向けた。代表作『出家とその弟子』のほか、戯曲『俊寛』や評論集『愛と認識との出発』も多くの青年たちに愛読された。

『出家とその弟子』…唯円という若い僧侶は、“かえで”という遊女を愛した。唯円と“かえで”は互いを深く理解し、涙しながら将来を語り合うのだった。しかし、唯円には日々寺での務めがある。また、僧侶が恋人を作ることは一般には認められないことだった。特定の関係を結ぶことは、僧侶の「全ての人に仕える」姿勢を揺るがしかねない。ましてや、唯円が愛するのは遊女である。それでも“かえで”に純粋に恋いこがれる唯円は、寺の仲間へ嘘を言ってまでも彼女に会おうとした。会わずにはいられないのだ。その内実を知った寺の仲間たちは、唯円を許してはおけない。1916(大正6)~17(大正7)年作。6幕。浄土真宗の開祖親鸞とその弟子唯円を中心に、信仰の苦悩と救いを描く。各国語に翻訳され、特にフランスの作家ロマン・ロランに激賞された宗教劇の傑作。

## 2/5 『出家とその弟子』演出 ◆ 島原夏海 (無名劇団代表/演出・役者/文部科学省認定ワークショップデザイナー)

平成元年大阪生まれ。大阪大学大学院修士課程卒。15歳で無名劇団に入団し、以降すべての作品に携わる。2014年から2代目代表。space×drama2015『無名稿 あまがさ』で優秀劇団選出、翌年に『無名稿 機械』で劇場との協働プロデュース公演を果たし、演出賞受賞。同年、札幌にて開催された教文短編演劇フェスティバルにて、道外初となる予選1位で決勝戦進出。ウイングカップ6『恋人がビッグフット』にて優秀賞受賞。(いずれも演出・役者)2017年5月に、歴代の優秀劇団を集めたspace×drama〇(わ)にて倉田百三『出家とその弟子』の翻案作品を演出し上演予定(於シアトリカル應典院)。また、6月にAI・HALLの次世代応援企画break a legに選出され、梅崎春生の『侵入者』の翻案作品を演出し上演予定(於AI・HALL)。

## 2/5 講師 ◆ 森本景文

演出家、1962年創立・劇団未来代表。大阪新劇団協議会合同公演・宮本研作『夢・桃中軒牛右衛門の』清水巖作『1995こうべ曼荼羅』、劇団未来公演、和田澄子作『差別』『玄界灘に架ける橋は』『ああ、ウェディングドレス』『やっぱり好きやねん〜与謝野晶子・寛と二人をめぐる人びと』、ふたくちつよし作『ダモイ』『切り子たちの秋』『萩咲く頃に』、大橋喜一作『コンペ野郎に夜はない』、ゴリキ一作『どん底』、ふじたあさや作『日本の教育1960』、ジェームス三木作『真珠の首飾り』他演出作品97本。『玄界灘に架ける橋は』(大阪文化祭奨励賞)、『ダモイ』(銀河ホール地域演劇賞)、2005年大阪府知事文化芸術功労表彰。

## 2/5 パネラー ◆ 菊川徳之助

演出家、日本演出者協会理事。元近畿大学舞台芸術教授、定年退職後、演出者として行動。現在、日本演劇学会理事、朗読コンテスト審査委員長。著「実践的演劇の世界」。近著「宮本研の劇世界」(共著)

稽古場見学できます!

ご希望の方は、各作品のお問い合わせ先にお申し込み下さい。

鈴木泉三郎作品: mongolstc@gmail.com

倉田百三作品: mumeigekidan@kud.biglobe.ne.jp